

モニタリング結果報告書 (令和4年度)

1. 施設概要

施設名	県民ホール（本館・神奈川芸術劇場）、音楽堂		
所在地	県民ホール本館：横浜市中区山下町3-1 神奈川芸術劇場：横浜市中区山下町281 音楽堂：横浜市西区紅葉ヶ丘9-2		
サイトURL	県民ホール本館： https://www.kanagawa-kenminhall.com/ 神奈川芸術劇場： https://www.kaat.jp/ 音楽堂： https://www.kanagawa-ongakudo.com/		
根拠条例	県民ホール本館：神奈川県立県民ホール条例 神奈川芸術劇場：同上 音楽堂：神奈川県立音楽堂条例		
設置目的(設置時期)	県民ホール本館：県民の文化芸術の振興及び福祉の増進を図るため (昭和50年1月) 神奈川芸術劇場：同上 (平成23年1月) 音楽堂：県民の音楽芸術の振興及び福祉の増進を図るため (昭和29年11月)		
指定管理者名	公益財団法人神奈川芸術文化財団		
指定期間	R3.4.1 ~ R8.3.31 (2021年) (2026年)	施設所管課	文化課

2. 総合的な評価

<h3 style="margin: 0;">総合的な評価の理由と今後の対応</h3> <p>※新型コロナウイルス感染症や原油価格高騰が3項目評価（利用状況、利用者満足度、収支状況）に与えた影響及び対応状況も含めて「総合的な評価の理由と今後の対応」を記載。</p> <p>(一体としてのコメント) 第4期指定管理期間の2年目である令和4年度は、提案書に定めたミッションに基づき、文化芸術の県民への鑑賞機会の提供や人材育成、各館のブランディングの強化、地域との連携等に取り組んだ。令和2・3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、職員の感染、稽古場での感染拡大等が発生したが、感染拡大対応も緩和され、公演環境についても平常時に移行してきた。 満足度調査結果は良好であったが、新型コロナウイルス感染症の影響が続き、利用率・利用者数は昨年度よりは上昇したが例年並みまでは戻らなかった。 これらの結果から、3館の評価及び一体としての3項目評価をA評価にした。 令和5年5月より、新型コロナウイルス感染症が5類区分となり、平常時と同様の対応となることから、3館それぞれの特徴を活かした魅力的な自主事業の開催等により、県民に対する芸術鑑賞の機会の提供や芸術文化の創造・発信し、例年並みの利用や収支が回復することを期待する。 一方で、指定管理者の提出書類の不備や誤記等が年間を通じて散見された。指定管理者で再発防止策をまとめたことから、今後、業務履行状況が改善されることを期待したい。</p> <p>■県民ホール(本館・神奈川芸術劇場)について 令和4年度は、県民ホール本館、神奈川芸術劇場ともに、提案書に基づいて適切に管理運営が行われた。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けたが利用者数は目標値を上回り、利用者満足度調査については、高評価を維持した。結果、利用状況はA評価、利用者の満足度がS評価、収支状況がB評価となり、3項目評価をA評価にした。</p> <p>■音楽堂について 令和4年度は、提案に基づいて適切に管理運営が行われた。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、施設利用者数は目標値を下回ることとなった。利用者満足度調査については、前年並みの高評価を維持した。利用状況はC評価となったため、利用者の満足度がS評価、収支状況がB評価であったが、3項目評価をB評価とした。</p>

<p><各項目の詳細説明></p> <p>■県民ホール(本館・神奈川芸術劇場)について 令和4年度は、令和3年度に引き続き県民ホール本館、神奈川芸術劇場及び音楽堂3館一体で事業を行った。県民ホール本館では令和7年の開館50周年に向けた記念オペラシリーズを上演した。神奈川芸術劇場では、令和3年度から引き続き、「劇場をひらく」をテーマに掲げ、エントランスロビーを活用した演劇公演や神奈川県を題材にした創作劇を仕立てたりした。また、シーズンタイトルは「忘」として、タイトルに沿った事業を展開した。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、神奈川芸術劇場プロデュースの近松心中物語やラビット・ホールの公演の一部等が中止となった。</p> <p>◆管理運営等の状況 提案に基づき、施設の保守点検、清掃、保安警備、管理物品の管理等の業務が行われた。 また、新型コロナウイルス感染症対策としては、ガイドラインを国や県の方針に基づき適宜改正し、利用者や来館者に周知した他、館内の消毒、来館者の検温等、施設内に必要な感染対策を講じ、安全安心な施設運営を進めた。</p> <p>◆利用状況 新型コロナウイルス感染症の対策の周知等に取り組んだ結果、県民ホール本館は、目標値を457,800人としていたが、利用者数は461,853人となった。一方、神奈川芸術劇場においては目標値164,500人に対し、利用者数は215,112人となり、2館合計では目標値622,300人に対して、676,965人となり、目標を達成したためA評価とした。</p> <p>◆利用者の満足度 県民ホール本館及び神奈川芸術劇場では11月から1月にかけて調査を実施した。前年度並みの回答数を得ることができ、2館ともに上位2段階の回答割合が100%となったためS評価とした。</p> <p>◆収支状況 県民ホール本館が収支比率94.19%、芸術劇場は収支比率100.65%であった。光熱水費高騰の影響を受け、2館を合わせた収支比率は97.71%となったため、B評価とした。</p> <p>◆苦情・要望等 神奈川芸術劇場において、チケットの販売方法等への意見があり、チケット販売方法の改善等の対応を行ったほか、劇中の内容に鑑賞に際して配慮が必要な場面(性暴力、喫煙など)がある場合の事前対応の要望があり、HP等で記載していくこととした。</p> <p>◆事故・不祥事等 決算に計算誤りがあり、県公益認定等審議会から指摘を受けた。また、職員の勤務時間が労働基準法の法定上限を超過した事案が発生した。双方、業務執行体制の見直しや再発防止策対応を行った。自主事業の1公演について、出演予定者と職員の間での調整が円滑に進まず、中止(令和6年度に延期)となった。業務の進行管理や退職者が出た場合のフォロー体制等の再発防止策を行った。</p> <p>◆労働環境の確保に係る取組状況 県による監査、労働基準監督者からの指摘事項はない。</p>					
<p>■音楽堂について フラッグシップとなる「音楽堂室内・オペラプロジェクト」では令和元年度にコロナの影響で中止となった「シッラ」の日本初演を開催し、「音楽堂ヘリテージ・コンサート」では「レ・ヴァン・フランセ」を実施した。</p> <p>◆管理運営等の状況 提案に基づき、施設の保守点検、清掃、保安警備、管理物品の管理等の業務が行われた。 また、新型コロナウイルス感染症対策としては、ガイドラインを国や県の方針に基づき適宜改正し、利用者や来館者に周知した他、館内の消毒、来館者の検温等、施設内に必要な感染対策を講じ、安全安心な施設運営を進めた。</p> <p>◆利用状況 新型コロナウイルス感染症対応としての学校やアマチュア団体の利用が減少した影響や、工事による半月程度の休館の影響などから、目標値を116,200人としていたが、利用者数は80,941人と、令和3年度の51,476人からは増加したが、利用者数の目標達成率は69.7%となったため、C評価とした。</p> <p>◆利用者の満足度 音楽堂では12月から1月にかけて実施し、上位2段階の回答割合が100%となったためS評価とした。回収率は増加したが、回収率は40.0%であったため、引き続き回収率の向上に努める必要がある。</p> <p>◆収支状況 音楽堂の収支比率は光熱水費高騰の影響を受け95.80%と100%を下回ったため、B評価とした。</p> <p>◆苦情・要望等 新型コロナウイルス対応や職員対応、貸館利用についての意見等が寄せられた。新型コロナウイルスガイドラインの改定、職員対応マニュアルの整備、ネット抽選の検討等の対応を行った。</p> <p>◆事故・不祥事等 決算に計算誤りがあり、県公益認定等審議会から指摘を受けた。業務執行体制の見直しや再発防止策対応を行った。自主事業の1公演について、招聘担当業者の不手際で公演者が入国できず、代替公演の開催中止となった。招聘担当業者の進捗確認を綿密に行っていくこととした。</p> <p>◆労働環境の確保に係る取組状況 県による監査、労働基準監督者からの指摘事項はない。</p>					

3. 3項目評価の結果

A	3項目評価 (施設別)		利用状況 (項目6参照)	利用者の満足度 (項目7参照)	収支状況 (項目8参照)	3項目評価とは、3つの項目(利用状況、利用者の満足度、収支状況)の評価結果をもとに行う評価をいう。 S:極めて良好 A:良好 B:一部改善が必要 C:抜本的な改善
	<参考> 県民ホール	A	A	S	B	
	<参考> 音楽堂	B	C	S	B	

4. 定期・随時モニタリング実施状況の確認

月例業務報告 確認	遅滞・特記事項があった月	特記事項または遅滞があった場合はその理由
	なし	遅滞はなかったが、時折、報告に誤りや不足があり、再提出や修正を求めたことがあった。
現地調査等 の実施状況	実施頻度	現地調査等の内容
	月3～4回	施設の劣化・修繕必要箇所の確認、自主事業のモニタリング等
意見交換等 の実施状況	実施頻度	意見交換等の内容
	月3～4回	苦情や懸案事項への対応、指定管理業務の対応、県民ホールのあり方検討意見交換等
随時モニタリングにおける 指導・改善勧告等の 有無	有・無	指導・改善勧告等の内容
		各種提出書類の誤りが多発したため、7月に口頭指導し、9月に文書による改善報告を求めた。その後、年度末に提出された利用者満足度調査について、内容、数値等の誤りや誤記があったため、再提出及び経緯等について報告を求めた。

5. 管理運営等の状況

[指定管理業務]

事業計画の主な内容	実施状況等	実施状況に関わるコメント
<p>●管理物件の維持管理に関する業務</p> <p>多数の来館者・利用者を迎える公共施設として、施設・設備を安定稼働させ、良好な空間を保ち、また、災害等の緊急時にも迅速に対応し、来館者・利用者の安全を確保する。</p> <p>県民ホール本館、神奈川芸術劇場は開館からの経過年数の違いから、必要な保全の段階も異なっているため、それらを適切に管理し、利用者に安全・快適に利用してもらうことが必要である。そのために、以下2つを基本的な考え方とする。</p> <p>①3館の運営者として標準化した業務基準・安全基準を持つこと</p> <p>②開館からの経過年数や特性の異なるそれぞれの建物・設備を熟知し長期的視点を持って管理すること</p>	<p>計画に基づき、保守点検、清掃、保安警備、管理施設の受付・案内、舞台関係管理運営、管理物品の管理等の業務を適切に実施した。また、主要な委託業務を近接する県民ホール本館及び神奈川芸術劇場で一体的に運用することで効率化に努めた。</p> <p>施設管理及び運営を行う職員の経験・ノウハウを、3館全体で共有し、今後見込まれる修繕等について県へ助言を行ったほか、県民ホール及び芸術劇場の舞台技術職員の持つ経験・ノウハウを3館で共有し、標準的な安全管理に関する意識を持つことで、安心して利用いただける施設運営を行った。</p> <p>〈県民ホール本館〉</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、劇場ガイドラインの更新を随時行ったほか、館内の消毒、来館者の検温・手指消毒への協力、スタッフのマスク着用の徹底を継続した。また、大小ホール客席・備品、会議室等に抗ウイルス・抗菌コーティングを施した。感染者数の減少に伴い、感染対策と経済活動の両立を念頭に、単なる制限ではなく、利用者の要望を実現するために様々な手法で対応した。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症への対応が引き続き重要となる中、感染症拡大防止対応、施設の管理運営、自主事業等にバランスよく取り組んでいることが確認された。</p> <p>一方で令和3年度より指導していた各種報告等の不備については引き続きモニタリングをして適宜指導していく。</p>

	<p>・前年度に増して老朽化による設備の障害発生頻度が高まっている。特に空調機関連の故障が発生し、完全には補完ができない状態での運転を続けるなど、万一の際には貸出不能の状況が発生する可能性がある。また、小ホールの大出賃楽器であるパイプオルガンの老朽化が進みオーバーホールの必要な時期を迎えており、演奏に支障をきたすような故障が発生している。利用者に状態を周知するとともに引き続きオーバーホール実施の可能性について検討を重ねた。</p> <p>・運営面においては、利用者ニーズに応え、多様化する催し物の特性に合わせて利用時間や南口玄関の開扉時間を柔軟に運用するなど利用者サービスの向上に引き続き努めた。</p> <p>・会場案内においては、子どもから高齢者、障がいがある方々など様々な来場者にきめ細やかな対応を行い、高齢者や足の不自由な方々に対する業務用エレベーターによる案内や大ホール主共催公演での3階席へのエレベーターの直通運転を継続して行った。</p> <p>〈芸術劇場〉</p> <p>・新型コロナウイルス感染症拡大防止のための劇場ガイドラインは、感染状況に応じて弾力的に改定しつつ、施設利用者・来館者に対しても感染拡大防止を図った。劇場内で整備した感染対策マニュアルやフローチャートなども日々変わる感染状況にあわせて、より継続的に創造活動と両立できるよう、必要な対策に的を絞って柔軟に対応し、コロナ禍での上演機会の確保に最大限に努めた。</p> <p>・施設の維持管理においては、主要な委託業務を近接する県民ホールと一体的に運用することで効率化に努めるとともに、利用状況に対応した設備点検計画を作成し、効率的な業務実施体制を整備した。</p> <p>・芸術劇場で初となる試みとして、実際に観客を入れての避難訓練「避難体験 in KAAT」を実施した。500名を超える観客が実際に避難階段を使ってホールから避難する、という体験を通して、実際に観劇中に災害が起きた際のシミュレーションを行うとともに、机上では気がつかなかった課題も確認された。職員や警備、案内係スタッフ等が一丸となって、劇場の防災・危機管理への意識を高める非常に有意義な取り組みとなった。</p> <p>・合同施設の管理組合構成員であるNHK横浜放送局や県とは定期協議の場を設け、アトリウムの利用調整を図るほか、感染症対策に関して積極的に情報交換をし、合同施設一体となった対応を行った。</p>	
<p>●管理施設の利用承認に関する業務</p> <p>令和3年度からの指定管理期間に向けて、「各館のブランディングの強化と3館一体の推進」「あらゆる人々に開かれた場」「地域との連携の強化」「厳しい経済環境への対応」の実現につながるよう、取り組む。</p>	<p>計画に基づき、各館の特性に合わせた施設運営業務を適切に実施した。</p> <p>〈県民ホール本館〉</p> <p>・令和4年度の利用率は、大ホール81.1%、小ホール84.6%、大会議室73.4%、ギャラリー81.3%であった。</p> <p>・利用率はほぼ平年並みに近づいた。コロナに関わる貸出制限は行わなかったが、感染拡大等を受けてその都度利用者の判断により利用の中止は発生したため、完全な回復までは至らなかった。</p> <p>・入場者数は、461,853人で、目標値の457,800人より増加しており、コロナ禍前の水準にあと一步と言える。利用料収入も233,230千円で、年度当初予算230,000千円を上回り、ほぼ回復したと言える。今後も、利用率、利用料向上に努めていく。</p>	

	<p>・運営面においては、利用者ニーズに応え、多様化する催し物の特性に合わせて利用時間や南口玄関の開扉時間を柔軟に運用するなど利用者サービスの向上に引き続き努めた。</p> <p><芸術劇場></p> <p>・新型コロナウイルスが確認されてから3年目を迎えた令和4年度も、県の対処方針に基づいて引き続き感染拡大防止への徹底した対応を実施し、安全・安心にお客様が観劇できる環境づくりに尽力して劇場運営をおこなった。令和4年度のホール利用率は98.1%となり、利用料収入ともにコロナ禍以前と変わらない高水準を保ち、劇場の活発さを取り戻す1年となった。</p> <p>・令和4年度は再び劇団四季の特定長期貸館（ミュージカル「ノートルダムの鐘」）を迎え、コロナ禍にもかかわらず、連日の満員御礼で7万人を超える集客となり、県民への鑑賞機会の提供と賑わいをもたらした。</p>	
<p>●音楽、演劇、舞踊その他の舞台芸術及び美術の振興に関する業務</p> <p>4つのミッション「創造に挑む」「感動を分かち合う」「つねに考える」「未来につなぐ」を柱とした芸術文化事業を展開し、県民の方々へ上質で豊かなプログラムを提供するとともに、参加していただくなどの活動を通し、社会や地域に創造性や活力が育まれることを目指していく。とくに、令和3年度は、新型コロナ感染症感染拡大予防や2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会等、神奈川県と歩調をあわせながら、事業を行っていく。</p> <p>社会連携ポータル部門を新たに設置し、①専門人材育成プログラム②学校教育へのアプローチ③あらゆる人々が芸術文化に親しめることを目指すインクルーシブアプローチ④地域との連携を強化する機能を強化する。</p>	<p>年間を通じて、4つのミッションを踏まえた芸術文化事業を展開し、多彩で良質な鑑賞機会、芸術体験の機会を提供したほか、芸術の可能性を考察する取組、未来につながる人材育成の取組等を多角的に実施した。</p> <p><県民ホール本館></p> <p>・県民ホールが実施した芸術文化事業は14事業/41演目（44公演）・11企画（14回）・6展覧会であり、入場者数等は41,138人であった。</p> <p>・芸術総監督及び芸術参与のディレクションのもと、令和7年1月に迎える開館50周年を目指して新しい総合舞台芸術表現の創作に取り組む「開館50周年記念シリーズ」を開始し、ロバート・ウィルソン/フィリップ・グラス「浜辺のインシュタイン」を、1992年の日本初演以来30年ぶりに、また日本初の新制作上演により実施した。多様なジャンルのアーティストの協働により、一柳芸術総監督の目指す「従来のオペラという枠にとらわれない、自由な発想による、新しい芸術表現」を体現するオペラを創造することができ、音楽、ダンス、演劇、アートなど多様なジャンルのファンを呼び込むことに成功した。批評においても第35回ミュージック・ペンクラブ音楽賞の現代部門を受賞するなど高い評価を獲得した。</p> <p>・そのほか大ホールでは、スターダンス・バレエ団との共同主催による現代バレエ「緑のテーブル」や、神奈川フィルハーモニー管弦楽団と日本を代表するアーティストが共演する「ファンタスティック・ガラコンサート」を実施した。</p>	

	<p>・小ホールでは「C×（シー・バイ）」シリーズとして、気鋭の作曲家と演奏家が時代を超えた名作に挑む「C×C（シー・バイ・シー）」、中田恵子オルガン・アドバイザーの監修による「C×Organ（シー・バイ・オルガン）」、大塚直哉がバロック鍵盤音楽の魅力を紹介する「C×Baroque（シー・バイ・バロック）」を実施し、小ホール事業の活性化を図った。なお、1月14日に予定されていた公演「C×C 作曲家が作曲家を訪ねる旅Vol. 4 酒井健治×ジェルジ・リゲティ」は制作上の準備が整わず、令和6年度に延期した。</p> <p>・ギャラリーでは、神奈川県美術展のほか、7人の作家による企画展「ドリーム／ランド」を行った。企画展では、国際色豊かな中堅、若手作家が参加し、伝統的な油彩画や日本画からデジタルメディアまで、現代美術の多彩な魅力を紹介し、朝日新聞等の美術展評にも取り上げられ、関連企画として脳科学者、ダンス、音楽など他ジャンルとのコラボレーションによる多彩なイベントも実施した。</p> <p>・県域ではアウトリーチ型オペラ公演として「みんなでたのしむオペラ『ヘンゼルとグレーテル』」（県民ホール小ホール、寒川町、相模原市、鎌倉市）を実施し、広域的な鑑賞機会の提供や、県内の文化施設や事業者等とのネットワークの拡大に努めた。また地域に向けて終日全館を開放する「オープンシアター2022」では、公演事業に加えてバックステージツアー、無料ロビーコンサート、ワークショップ、アール・ブリュットのアート展示を実施し、国内初のバレエ公演における聴覚障がい者のための音声ガイドなど、鑑賞サポートの充実に取り組んだ。両事業とも社会連携ポータル部門との連携により実施したほか、インターンシップの受け入れにおいても同部門と協働し、多角的かつ実践的なプログラムを提供した。</p> <p>・他方で、新型コロナウイルス感染症の影響は年間を通して継続した。安全な事業実施に向けた諸対策を徹底したが、稽古場での陽性者連続発生による創作の中断など、様々な影響が発生した。</p> <p><芸術劇場></p> <p>・芸術劇場が実施した芸術文化事業は22事業／37演目（228公演）・30企画（61回）・1展覧会であり、入場者数等は65,671人であった（国内各地で開催した巡回公演を除くと52,040人）。一部の事業ではオンライン配信を実施した。</p> <p>・ようやく終息を見せつつあるコロナ禍ではあるが、一部の公演に中止が生じた。しかし全公演関係者の不断の努力により、その影響を最小限に留め、成果を示すことができた。</p> <p>・令和3年度に就任した長塚圭史芸術監督の2年目であったが、引き続き、劇場を「ひらいて」いくこと、豊かなプログラムを提供する枠組みとしてシーズン制を設けること、また創作環境と劇場の未来を考えることの3つの方針を掲げ、多様な作品制作とその発信に取り組んだ。</p>	
--	---	--

・5月～6月には、これまで継続的に取り組んできたKAAT EXHIBITIONを初めてアトリウムで開催した。鬼頭健吾によるインスタレーションは、色彩とリズムにあふれる空間を作り出し、アトリウムの風景を一変させた。また、そこで行った三作のダンス作品と気鋭の劇作家山本卓卓によるテキスト・インスタレーションとともに、舞台に触れることの少ない方々にも劇場やアートを体験していただくというプレシーズンに相応しいものとなった。

・例年開催しているキッズプログラムでは、前年度に初演した現代美術とコンテンポラリーダンスの協働による「ククノチ テクテク マナツノ ボウケン」の再演とツアーに加え、令和元年度にコロナ禍によって上演延期となっていた、松井周作演出による「さいごの1つ前」の創作上演を行った。前者では、上演中に観客が参加するダンスの事前レクチャーやそのシーンで身に付けるお面を製作するワークショップを各公演前に開催、後者では、劇中で使用する絵やアイデアを子どもたちと探す事前ワークショップを開催し、子どもたちに多様な体験を提供した。

・9月からのメインシーズンにおいては、『忘』をシーズンタイトルとし、そこから想起される多様な上演を行った。開幕を飾った長塚芸術監督演出の「夜の女たち」では、溝口健二監督の映画『夜の女たち』を元に、敗戦で価値観が一切覆った日本を、ミュージカル作品として描いた。また、山内ケンジの作演出による「温暖化の秋 -hot autumn-」、沖縄在住の兼島拓也が書き下ろし、沖縄にルーツを持つ田中麻衣子が演出した「ライカムで待っとく」は、いずれも強い批評性を帯びた上演となり高い評価を受けた。

・横浜国際舞台芸術ミーティング(YPAM)では今年も様々な作品が上演され、特に、横浜中華街に生きる様々な国籍を持ち(あるいは持たずに)力強く明るく生きる人々に焦点を当てたヤン・ジェンの「ジャスマインタウン」は、地域と世界を思考する機会を観客に提供した。

・シーズン後半では、森山開次振付・演出「星の王子さま サン=ジュペリからの手紙」は、高い上演成果を得た作品を劇場の財産として再演する取り組みの一環であり、日本有数のダンサーたちによる大型ダンス公演として、幅広い観客に好評を得た。続いて、劇作家・齋藤雅文による戯曲により、黒澤明監督の映画「蜘蛛巣城」を赤堀雅秋の演出で上演した。シェイクスピア『マクベス』を原作とするこの作品は舞台を戦国時代に移した時代劇であるが、まさに今世界で起きている状況とも重なり、為政者の愚行、また逃れることの出来ない人間の欲という業を浮き彫りにした。また、岡田利規がドイツ・ミュンヘンのカンマーシュピーレ劇場に書き下ろし自身で演出した「掃除機」を、本谷有希子氏の演出で上演し、岡田作品の新たな魅力を掘み出し、刺激的な試みとなった。

	<p>・令和3年度から新たに取り組んでいるカイハツでは、ジャック・ルコック演劇学校による招聘ワークショップ、演出家の桐山知也や欧州を拠点に活躍している舞踊家の伊藤郁女、またスコットランドから招いたアーティストによりアイディアの模索がおこなわれ、また新たな出会いの場となった。今後も、継続的に取り組んでいきたい。また、アトリウムを主たる会場とするフレンドシッププログラム、バックステージツアー、障がいを持つ方への鑑賞サポートなど、活用できるリソースを配分しながら、劇場を「ひらいて」いくための取組を積み重ねている。</p> <p>・より多くの県民に足を運んでいただくための取組として、「県民割」を試行した。大変に好評であり、令和5年度では、すべての自主事業において扱っていく予定。また、広報誌KAAT PAPERの発行、ウェブラジオであるRadio KAATによる発信にも取り組んだ。</p> <p>〈社会連携ポータル部門の取組〉 財団のミッション「感動を分かち合う」、「未来につなぐ」の達成のため、専門人材育成プログラム、学校教育へのアプローチ、あらゆる人々が芸術文化に親しめることを目指すインクルーシブアプローチ、地域との連携を強化する機能の4つのアプローチで、社会と芸術をつなぐ窓口＝ポータルとなるべく各館事業と協働し取組をすすめた。2年目となった本年は、初年度の試みや知見を事業に反映し、とくにインクルーシブアプローチについては新しい方法での鑑賞サポート、また各団体との協力体制を作り、鑑賞機会が少ない子どもたちの招待を進めることができた。芸術文化や文化施設の社会での役割が問われている今、取組を実際に進めながら、抽出した課題の解決に向けてさまざまな団体との連携を強化し、当部門としてできることを引き続き模索していく。</p>	
<p>●その他設置目的を達成するための業務</p>	<p>〈情報誌発行〉 ・情報誌「神奈川芸術プレス」においては、前年度に大幅にリニューアルした内容をさらにブラッシュアップし、財団の主催事業に限らず、広く県内外で実施された芸術文化や文化施設の取組等を紹介した。県民に芸術文化への理解をより深めて親しみを感じてもらうために、文化と社会の架け橋になるような特集テーマを設定し、社会的に注目度の高い人材育成、インクルーシブ関連の取組も広く紹介した。発行は、9月、3月の2回であった。</p>	

	<p><チケットセンター運営></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民ホール・芸術劇場・音楽堂で開催される公演のチケット販売を行うためにチケットセンターの運営を行った。併せて主催公演のチケットの販売の効率性を支援する票券管理補助業務を行った。チケット販売においては運用実績のあるチケット販売システムを継続して利用した。インターネットや電話による通信販売に加え、3館での窓口販売を行った。電話販売においては、単にチケットの販売にとどまらず、インターネットによる購入方法の説明、公演や会場周辺に関する案内なども行い利用者サービスの向上を図った。 ・電子チケットでのチケット引き取りを試験的に実施し、令和5年度からの本格導入に向けて体制を整えた。 ・主催公演のチケットの販売促進の一環として、各種団体、会員組織向けのインターネットを利用した割引販売を継続して行った。 <p><会員組織運営></p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化の普及、鑑賞機会の提供の拡充を目指し、インターネットを利用して24時間チケットの予約・購入が可能な無料の会員登録制度「かながわメンバーズ (KAme)」を運営し、情報提供やサービス提供を行った。 ・2週間に1回の定期メールマガジン配信および随時行う臨時配信による最新のチケット発売情報などの提供とともに、会員限定の先行予約のサービスを実施した。会員数は増加傾向にあり、令和4年度末の「かながわメンバーズ (KAme) 会員」は、118,607人であった。 <p><外部資金調達></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業内容や広報活動等の一層の充実のため、国庫補助金や助成金など外部資金の獲得に努め、さらに広く当財団の活動趣意に賛同いただける企業・個人からの支援をいただくための活動を行った。 <p>【令和4年度獲得実績】</p> <p><補助金・助成金></p> <p>日本芸術文化振興会（文化庁）「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」2件（96,111千円）、映像産業振興機構（文化庁）（25,000千円）ほか</p> <p><賛助会員>（3館合計） 65者 計5,580千円（法人・個人・永年個人合計）</p> <p><個別協賛・その他>（3館合計） 公演、展覧会個別協賛（1,650千円）、広告協力（250千円）、一般寄付、オンライン小口寄付等（392千円）</p>	
--	--	--

※指定管理業務に与えた新型コロナウイルス感染症等の影響がある場合、対応状況を含めて、「実施状況等」欄に記載。

[参考：自主事業]

事業計画の主な内容	実施状況等
リフレッシュ・サービス	自主事業公演等開催時に、劇場サービスとして、ホール内ビューッフェやロビー等で飲食物等の販売の実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止策の一環として、ホール内での飲食を禁止したため、実施を見合わせた。

※自主事業に与えた新型コロナウイルス感染症等の影響がある場合、対応状況を含めて、「実施状況等」欄に記載。

6. 利用状況

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 ※施設の特性から利用状況の評価を行わない場合は「目標値の設定根拠」欄に当該理由を、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）を記載してください（女性保護施設と県営住宅等が該当）。
A	

	前々年度	前年度	令和4年度
利用者数※県民ホール本館	74,437	335,833	461,853
利用者数※神奈川芸術劇場	64,633	214,380	215,112
対前年度比 県民ホール本館		451.2%	137.5%
対前年度比 神奈川芸術劇場		331.7%	100.3%
目標値 県民ホール本館	654,000	392,400	457,800
目標値 神奈川芸術劇場	200,000	141,000	164,500
目標達成率 県民ホール本館	11.4%	85.6%	100.9%
目標達成率 神奈川芸術劇場	32.3%	152.0%	130.8%

目標値の設定根拠： 経営改善目標（第6次経営改善計画内）

利用者数の算出方法（対象）： 主催事業は指定管理者が確認、共催・提携・貸館事業は主催者からの報告による（対象者：施設への来館者、利用者）

※原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

<備考>令和2年度第3回第三セクター等改革推進部会（令和3年3月29日開催）における経営改善目標の策定の中で、提案時の目標値を一部変更し、今後5年間（令和3年度～令和7年度）の目標値を設定した。

【新型コロナウイルス感染症等が利用状況に与えた影響と対応状況】 （※当該影響により評価結果がCとなった場合は必ず記載）

①新型コロナウイルス感染症等が利用状況に与えた影響

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う国及び県の基本方針が少しずつ緩和方向に向かったため、感染防止対策を取りつつも県民ホール本館の財団主催公演、貸館公演のいずれも、入場者数は上昇傾向が見られ、目標値を上回った。神奈川芸術劇場も同様に、目標値と比較して5万人余り多くなった。

②令和4年度の対応状況

県民ホール本館、神奈川芸術劇場ともに国の方針に基づき、全国公立文化施設協議会による感染防止にかかるガイドライン及び専門家の意見を取り入れながら施設利用者、来館者に向けた新型コロナウイルス感染症予防ガイドラインを適宜改定し、利用者及び来館者に周知するとともに、施設内に必要な感染対策を講じ、安心安全な施設運営に努めた。また、県の方針をふまえ、利用者、来館者に向けて、「LINEコロナお知らせシステム」への登録を促すポスターや「感染防止対策取組書」、「3密」を避け「マスクの着用」、「飲食・会食をお控えいただくこと」など劇場マナーを呼びかけるサインを館内に掲出し、感染拡大防止を図った。また施設の感染対策として、入口でのサーモグラフィによる体温確認、各所への手指消毒液、アクリルパーテーション、ビニールパーテーションの設置、換気の強化、委託業者を含む施設スタッフへのマスク着用や感染対策の徹底などに取り組んだ。

令和4年10月より国の感染対策は緩和方向に向かったが、県民ホール本館、神奈川芸術劇場共に特に財団の主催事業においては、引き続き必要な感染対策を行った上で多くの公演を行った。

前出のとおり、劇場サービスとして、ホール内での実施を予定していた飲食物の販売を中止した。

<備考>

【新型コロナウイルス感染症等が利用者満足度に与えた影響と対応状況】
(※当該影響により評価結果がCとなった場合は必ず記載)

①新型コロナウイルス感染症等が利用者満足度に与えた影響
新型コロナウイルス感染症等の影響に関しては「2. 総合的な評価」欄を参照

②令和4年度の対応状況
新型コロナウイルス感染症等の影響に関しては「2. 総合的な評価」欄を参照

8. 収支状況

評価	≪評価の目安：収支差額の当初予算額が0円の施設≫ 収入合計/支出合計の比率が、S(優良)：105%以上 A(良好)：100%～105%未満 B(概ね計画どおりの収支状況である)：85%～100%未満 C(収支比率に15%を超えるマイナスが生じている)：85%未満
B	

[指定管理業務 県民ホール本館]

(単位:千円)

		収入の状況					支出の状況	収支の状況	
		指定管理料	利用料金	その他収入	その他収入の主な内訳	収入合計	支出	収支差額	収支比率
前々年度	当初予算	632,329	256,056	244,212	備考のとおり	1,132,597	1,132,597	0	
	決算	677,046	72,828	320,478	備考のとおり	1,070,352	1,034,147	36,205	103.50%
前年度	当初予算	622,614	177,797	117,285	備考のとおり	917,696	917,696	0	
	決算	622,614	217,357	138,717	備考のとおり	978,688	996,856	-18,168	98.18%
令和4年度	当初予算	623,978	230,000	114,244	備考のとおり	968,222	968,222	0	
	決算	623,978	233,230	148,624	備考のとおり	1,005,832	1,067,873	-62,041	94.19%

※支出に納付金が含まれる場合、その内数

(単位:千円)

令和4年度 / 前年度 / 前々年度 /

<備考>

【その他収入の主な内訳】

(前々年度・当初予算) 事業収入：82,541、補助金等収入：91,300、負担金収入：50,000 等
 (前々年度・決算) 事業収入：38,244、補助金等収入：87,848、負担金収入：42,318 等

(前年度・当初予算) 事業収入：23,407、補助金等収入：28,800 等

(前年度・決算) 事業収入：35,600、受託収入：40,000、補助金等収入：28,457 等

(令和4年度・当初予算) 事業収入：52,337、補助金等収入：24,500 等

(令和4年度・決算) 事業収入：47,235、受託収入：23,500、補助金等収入：37,065 等

[指定管理業務 神奈川芸術劇場]

(単位:千円)

		収入の状況					支出の状況	収支の状況	
		指定管理料	利用料金	その他収入	その他収入の主な内訳	収入合計	支出	収支差額	収支比率
前々年度	当初予算	615,674	194,417	490,690	備考のとおり	1,300,781	1,300,781	0	
	決算	684,209	119,680	460,583	備考のとおり	1,264,472	1,254,220	10,252	100.82%
前年度	当初予算	668,582	144,125	543,503	備考のとおり	1,356,210	1,356,210	0	
	決算	668,582	170,409	493,835	備考のとおり	1,332,826	1,325,573	7,253	100.55%
令和4年度	当初予算	665,617	175,565	454,469	備考のとおり	1,295,651	1,295,651	0	
	決算	665,617	190,637	433,018	備考のとおり	1,289,272	1,280,919	8,353	100.65%

※支出に納付金が含まれる場合、その内数

(単位:千円)

令和4年度 / 前年度 / 前々年度 /

<備考>

【その他収入の主な内訳】

(前々年度・当初予算) 事業収入：269,804、補助金等収入：49,000、特定資産取崩収入：121,327 等
(前々年度・決算) 事業収入：136,320、補助金等収入：108,740、特定資産取崩収入：167,437 等

(前年度・当初予算) 事業収入：440,777、補助金等収入：50,500 等
(前年度・決算) 事業収入：266,584、補助金等収入：89,894、負担金収入：68,075 等

(令和4年度・当初予算) 事業収入：341,487、補助金等収入：51,200 等
(令和4年度・決算) 事業収入：281,663、補助金等収入：65,156 等

〔 合計 指定管理業務 〕

(単位:千円)

		収入の状況					支出の状況	収支の状況	
		指定管理料	利用料金	その他収入	その他収入 の主な内訳	収入合計	支出	収支差額	収支比率
前々年度	当初予算	1,248,003	450,473	734,902	備考のとおり	2,433,378	2,433,378	0	
	決算	1,361,255	192,508	781,061	備考のとおり	2,334,824	2,288,367	46,457	102.03%
前年度	当初予算	1,291,196	321,922	660,788	備考のとおり	2,273,906	2,273,906	0	
	決算	1,291,196	387,766	632,552	備考のとおり	2,311,514	2,322,429	-10,915	99.53%
令和4年度	当初予算	1,289,595	405,565	568,713	備考のとおり	2,263,873	2,263,873	0	
	決算	1,289,595	423,867	581,642	備考のとおり	2,295,104	2,348,792	-53,688	97.71%

※支出に納付金が含まれる場合、その内数

(単位:千円)

令和4年度 / 前年度 / 前々年度 /

<備考>

【その他収入の主な内訳】

(前々年度・当初予算) 事業収入: 352,345、補助金等収入: 140,300 等
(前々年度・決算) 事業収入: 174,564、補助金等収入: 196,588 等(前年度・当初予算) 事業収入: 464,184、補助金等収入: 79,300 等
(前年度・決算) 事業収入: 302,184、補助金等収入: 118,351 等(令和4年度・当初予算) 事業収入: 393,824、補助金等収入: 75,700 等
(令和4年度・決算) 事業収入: 328,898、補助金等収入: 102,221 等

【新型コロナウイルス感染症等が収支状況に与えた影響と対応状況】

(※当該影響により評価結果がCとなった場合は必ず記載)

①新型コロナウイルス感染症等が収支状況に与えた影響

新型コロナウイルス感染症等の影響に関しては「2. 総合的な評価」欄を参照

②令和4年度の対応状況

新型コロナウイルス感染症等の影響に関しては「2. 総合的な評価」欄を参照

9. 苦情・要望等 該当なし

県民ホール本館

分野	報告件数	概要	対応状況
施設・設備		件	
		件	
職員対応		件	
		件	
事業内容		件	
		件	
その他		件	
		件	

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

神奈川芸術劇場

分野	報告件数	概要	対応状況
施設・設備		件	
		件	
職員対応		件	
		件	
事業内容	1	鑑賞するにあたり、配慮する必要がある場面がある作品（劇中にて喫煙や性暴力シーンがある旨）は、公演当日のホワイエ掲示だけでなく、HPや購入時の注意事項として事前に表記して欲しい。	演目の内容について配慮するシーンがある場合には、購入前にお客様がわかるように、演出家とも表記内容を相談しながら、今後はHPやチラシ、またチケット購入画面の備考等に丁寧に記載していく。
		件	
その他	3	<ul style="list-style-type: none"> ・県民先行予約等の仕組みがあると良い。若者向け料金等設定して欲しい。 ・チケット料金に障がい者割引があると良い。 ・プログラム販売等で現金以外に電子マネーやクレジットカードが使えると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一部公演にて、「神奈川県民割」を開始。令和5年度からは、すべてのKAAT主催公演で「神奈川県民割」を適用する。また、高校生以下割引、U24料金も設定しているほか、平日夜割引、特割（舞台の一部が見えにくいエリア限定の安価な席）など幅広い席種の展開を行った。 ・プログラム販売等に使用できるキャッシュレス決済を令和5年度より導入予定。
		件	

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

10. 事故・不祥事等 該当なし

発生日	①発生時の詳細な状況 ②県職員による確認の状況（内容及び実施日を記入） ③その後の経過（現在に至るまでの負傷者の状況、再発防止策等） ④施設に対する問題点の指摘やクレームの有無（有の場合は概要を記入） ⑤原因及び費用負担の有無（費用負担が有の場合は内容および負担者を記入） ⑥記者発表の有無（有の場合はその年月日を記入）
9月20日	①令和3年度決算の公益認定三基準の計算誤り ②県公益認定等審議会から指摘を受けた。 ③業務執行理事である専務理事が代表理事より口頭訓戒を受けた。 ④無 ⑤無 ⑥無
3月3日	①財団職員3名の時間外勤務時間が労働基準法の法定上限100時間を超過したため、特別監査を実施した。 ②令和5年3月3日の第2回通常理事会にて報告した。 ③業務執行体制を見直し、整備する。 ④無 ⑤無 ⑥無
1月14日	①予定されていた事業計画1公演について制作上の準備が整わず実施出来なかった。（令和6年度に実施予定）（再掲） ②事業変更届を提出し、承認を受けた。 ③無 ④無 ⑤無 ⑥無
9月	①各種提出書類の誤りが多発したため、7月に口頭指導し、9月に文書による改善報告を求めた。その後、年度末に提出された利用者満足度調査について、内容、数値等の誤りや誤記があったため、再提出及び経緯等について報告を求めた。 ②各種提出書類の確認（随時） ③随時提出書類を確認することとしている。 ④無 ⑤財団からの報告書によると、チェック漏れや現場担当者等が新任で十分な業務把握する時間もなく報告作成に臨み、記載を誤った等。 ⑥無

※過去に発生したものでも、新たな対応等を実施した場合には、その内容を記載。

※なお、大きな事故・不祥事について改善勧告を行わなかった場合は、その理由を併せて記載。

11. 労働環境の確保に係る取組状況

確認項目	指摘事項の有無	備考
法令に基づく手続き	無	
職員の配置体制	無	
労働時間	無	
職場環境	無	

※指摘事項は、県による監査（包括外部監査含む）又は労働基準監督署によるものとし、有とした場合は備考欄に概要を記載。

4. 定期・随時モニタリング実施状況の確認

月例業務報告 確認	遅滞・特記事項があった月	特記事項または遅滞があった場合はその理由
	なし	遅滞はなかったが、時折、報告に誤りや不足があり、再提出や修正を求めることがあった。
現地調査等 の実施状況	実施頻度	現地調査等の内容
	月3～4回	施設の劣化・修繕必要箇所の確認、自主事業のモニタリング等
意見交換等 の実施状況	実施頻度	意見交換等の内容
	月3～4回	苦情や懸案事項への対応、指定管理業務の対応、県民ホールのあり方検討意見交換等
随時モニタリングにおける 指導・改善勧告等の 有無	有・無	指導・改善勧告等の内容
		各種提出書類の誤りが多発したため、7月に口頭指導し、9月に文書による改善報告を求めた。その後、年度末に提出された利用者満足度調査について、内容、数値等の誤りや誤記があったため、再提出及び経緯等について報告を求めた。

5. 管理運営等の状況

[指定管理業務]

事業計画の主な内容	実施状況等	実施状況に関わるコメント
<p>●管理物件の維持管理に関する業務</p> <p>多数の来館者・利用者を迎える公共施設として、施設・設備を安定稼働させ、良好な空間を保ち、また、災害等の緊急時にも迅速に対応し、来館者・利用者の安全を確保する。</p> <p>必要な保全を適切に管理し、利用者に安全・快適に利用してもらうことが必要である。そのために、以下2つを基本的な考え方とする。</p> <p>①3館の運営者として標準化した業務基準・安全基準を持つこと</p> <p>②開館からの経過年数や特性の異なるそれぞれの建物・設備を熟知し長期的視点を持って管理すること</p>	<p>・計画に基づき、保守点検、清掃、保安警備、管理施設の受付・案内、舞台関係管理運営、管理物品の管理等の業務を適切に実施した。また、施設管理及び運営を行う職員の経験・ノウハウを、3館全体で共有し、今後見込まれる修繕等について県へ助言を行ったほか、県民ホール及び芸術劇場の舞台技術職員の持つ経験・ノウハウを3館で共有し、標準的な安全管理に関する意識を持つことで、安心して利用いただける施設運営を行った。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症対策として公開していた音楽堂のガイドラインを、国や神奈川県からの要請等に合わせて4回改定した。最新情報に照らし合わせ、その時点での最適対応で行われるようにし、舞台上の人数制限の緩和、ディスタンスの見直し等を適宜行い、施設利用者や来場者の安全性と利便性向上を図った。</p> <p>・2月にホールを3週間休館し、平成29～30年の大規模修繕の際見送られていた客席扉の更新が行われた。また同時期に外構の修繕や、前川建築設計事務所による「舞台関係(舞台床、張出舞台、オーケストラピット)改修調査」が行われた。</p>	

<p>●管理施設の利用承認に関する業務</p> <p>令和3年度からの指定管理期間に向けて、「各館のブランディングの強化と3館一体の推進」「あらゆる人々に開かれた場」「地域との連携の強化」「厳しい経済環境への対応」の実現につながるよう、取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に基づき、施設の特徴に合わせた施設運営業務を適切に実施した。 ・新型コロナウイルス感染症の影響が令和2年～3年に比べ減少し、施設利用の回復が見られた。[利用率：令和2年度31.1%⇒3年度63.4%⇒4年度83.1%] ・ボランティアグループbridgeと協力し、「前川建築見学ツアーin音楽堂」を引き続き実施した。毎回募集開始後すぐ定員に達し、好評であった。また、トライアルとして目の不自由な方向への建築ツアーの試行を重ね、今後更に門戸を広げる活動ができるような取組の検討を行った。 ・紅葉ヶ丘公立文化施設五館の連携活動、通称「紅葉ヶ丘まいらん」では、3月4日に「春祭り」と称した合同イベントを実施。音楽堂主催事業との同日開催とし、紅葉ヶ丘一体の文化環境の豊かさを地域の方々に知っていただけるよう取り組んだ。 	
<p>●音楽、演劇、舞踊その他の舞台芸術及び美術の振興に関する業務</p> <p>神奈川芸術文化財団は、4つのミッション「創造に挑む」「感動を分かち合う」「つねに考える」「未来につなぐ」を柱とした芸術文化事業を展開し、県民の方々へ上質な豊かなプログラムを提供や参加などの活動を通し、社会や地域に創造性や活力が育まれることを目指していく。とくに、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大予防や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等、神奈川県と歩調をあわせながら、事業を行っていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽堂が実施した芸術文化事業は14事業／40演目（52公演）・27企画（35回）であり、入場者数等は21,845人であった。 ・開館65周年を機に開始した、音楽堂のプレゼンスを全国または首都圏において再度高めていくという事業方針に沿い、コロナ禍で一時中断、変更を余儀なくされていた事業に再挑戦、または軌道修正しながら実現していく1年であった。基本的に、上質性、先進性、国際性とオリジナリティにあふれたクラシック音楽を主としたレギュラーラインアップを、主催事業と共催事業を連動させて展開し、若い世代や地域に向けては、新しいジャンルの音楽や、他ジャンルの芸術との協働も含めた発信を行い、一流室内楽ホールとしてのブランドイメージを構築することに努めた。 ・フラグシップとなる「音楽堂室内オペラ・プロジェクト」では、令和元年度にコロナ禍で公演直前に中止となったファビオ・ピオンディ指揮エウローパ・ガラントによるヘンデル『シッラ』全3幕の日本初演を実施。演出の彌勒忠史ほか日本側クリエイティブスタッフと、再集結した世界一流のキャスト陣による国際協働を、令和元年度版から保存されたプラン、セット、衣裳をもとに再構築し、NHK「BSプレミアムシアター」での放映・配信を実現した。 またドイツ、UNITEL社と全世界における永年放映、配信、製品化権の権利譲渡に関する契約を締結し、音楽堂から全世界への発信の可能性を拓いた。関連企画として横浜能楽堂等と連携した事前ワークショップ、社会連携ポータル部門と連携した「制作・広報インターン」を実施した。 	

	<p>・世界的名演奏家の公演を招致するもう一つのフラグシップ「音楽堂ヘリテージ・コンサート」では令和2年度に中止されたチェリスト、ステイーヴン・イッサーリスのプロジェクトをリサイタルに替えて実施したほか、木管楽器のトップスターが集まった「レ・ヴァン・フランセ」の公演を初実施した。令和2年度にコロナ禍で映像配信のみとなったクロノス・クアルテットによるテリー・ライリー「サン・リングズ」の日本初演はカルテットの来日不可のため中止となったが、代替公演として、日本に移住しているテリー・ライリーによる鍵盤楽器でのスペシャルライブを行った。また共催事業として世界的ヴァイオリニスト、ヴィクトリア・ムローヴァのリサイタルを誘致。NHK「クラシック音楽館」での放映も実現した。</p> <p>・「ホールを開く／次世代を呼び込む」の2つのミッションに対応する事業「子どもと大人の音楽堂」では、横浜、神奈川の地域課題の一つである多文化共生をテーマに、中国語、英語、ポルトガル語などの言語サポーターや地元当事者のグループによるパフォーマンスなどの「<子ども編>せかいはともだち!」、音楽堂になじみのない層も含め若い感性で音楽堂全体を楽しむ「<大人編>音楽堂のピクニック」を開催。紅葉ヶ丘の公立文化施設5館による連携アクション「紅葉ヶ丘まいらん」では「音楽堂のピクニック」と連携する同日イベントを開催し、5館を巡るクイズラリーなどとあわせて地域の魅力を発信した。</p> <p>・従来の表現・思考のスタイルにとらわれない新しい表現を紹介するシリーズ「新しい視点」では企画案の公募プロジェクト「紅葉坂プロジェクト」で令和3年度に審査・採択した企画案の本公演を実施するとともに、次回の審査・採択・ワークインプログレスを実施。またニューヨークを拠点に活躍するマリimba奏者小森邦彦の構成で、一柳慧芸術総監督とアレハンドロ・ヴィニャオ（アルゼンチン）という、世界的にもマリimbaに焦点を当てた作品数でトップクラスを誇る巨匠二人の作品展となるコンサートを開催。ヴィニャオはロンドンから招聘し、ライブエレクトロニクスと打楽器等の共演、作曲者本人による曲目解説などを行った。</p> <p>・アウトリーチは社会連携ポータル部門と協働し、教員の指導法のヒントになる「先生のためのアウトリーチ」を県内各地で実施し、社会連携ポータルのサイトで紹介する動画の制作などを行った。</p>	
--	---	--

※指定管理業務に与えた新型コロナウイルス感染症等の影響がある場合、対応状況を含めて、「実施状況等」欄に記載。

[参考：自主事業]

事業計画の主な内容	実施状況等
リフレッシュ・サービス	以前は自主事業公演等開催時に、来館者へのサービスとして、ホワイエで県内福祉作業所の焼き菓子や飲み物等の販売を行っていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、中止した。

※自主事業に与えた新型コロナウイルス感染症等の影響がある場合、対応状況を含めて、「実施状況等」欄に記載。

6. 利用状況

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 ※施設の特性から利用状況の評価を行わない場合は「目標値の設定根拠」欄に当該理由を、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）を記載してください（女性保護施設と県営住宅等が該当）。
C	

	前々年度	前年度	令和4年度
利用者数※	17,999	51,476	80,941
対前年度比		286.0%	157.2%
目標値	166,000	99,600	116,200
目標達成率	10.8%	51.7%	69.7%

目標値の設定根拠： 経営改善目標（第6次経営改善計画内）

利用者数の算出方法（対象）： 主催事業は指定管理者が確認、共催・貸館事業は主催者からの報告による（対象者：施設への来館者、利用者）

※原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

<備考>令和2年度第3回第三セクター等改革推進部会（令和3年3月29日開催）における経営改善目標の策定の中で、提案時の目標値を一部変更し、今後5年間（令和3年度～令和7年度）の目標値を設定した。

【新型コロナウイルス感染症等が利用状況に与えた影響と対応状況】

（※当該影響により評価結果がCとなった場合は必ず記載）

①新型コロナウイルス感染症等が利用状況に与えた影響

- 令和4年度に音楽堂で中止となった利用53件のうち80%以上が感染症拡大そのものや、感染症対策としての舞台上等の人数制限などを理由としており、コロナ禍の影響が色濃い。
- また、令和4年度は、令和5年2月に県執行の劇場扉更新工事が16日間休館して実施されたことが、入場者数に影響した。

主に、上記2点の影響により、令和4年度は経営改善計画の目標に届かなかった。

②令和4年度の対応状況

国や県の方針等の見直し等にあわせて「音楽堂ガイドライン」を改定、HPで公開。主催事業、貸館事業共にこれに基づく運用を行なった。利用者にとっては、利用における安全計画の策定又は感染防止策チェックリスト公開、主催事業については、加えて出演者のPCR検査等も含めた十分な感染症防止対策を行った上で実施した。施設内の換気、サイン掲示、パーテーション設置、舞台上や楽屋の人数制限等を、前年度に引き続き実施した。7月に楽屋定員を見直し、令和5年2月10日以降は、マスク着用は個人の判断にゆだねることを基本とする旨ガイドラインを改定した。

7. 利用者の満足度

評価	≪評価の目安≫ 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、S：90%以上 A：70%以上～90%未満 B：50%以上～70%未満 C：50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う。
S	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	(1) 簡易アンケート 管理施設の窓口等に常時用紙を備え、管理施設の利用者等に対して、簡便な方法で常時実施するアンケート (2) 詳細アンケート 年1回、時期を定めて、より詳細な質問項目のアンケートを、管理施設の利用者等へのアンケート用紙の配布及び管理施設ホームページにおいて実施し、結果を分析するアンケート	・利用者について 有効回答数は10件であった。 「施設を利用した全体的な印象」、「施設・設備を利用した感想」、「職員の対応」、については「満足」「どちらかといえば満足」や「良い」「どちらかといえば良い」との回答であることから、概ね評価していただいていることが分かる。 「今後の音楽堂の利用予定」の設問に対しては、「次回の予定が決まっている」が90%であった。

[サービス内容の総合的評価]

質問内容 今回、施設をご利用いただいた全体的な印象をお聞かせください

実施した調査の配布方法 用紙配布 回収数/配布数 10 / 25 = 40.0%

配布(サンプル)対象 _____

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	8	2			10	
回答率	80.0%	20.0%				
前年度の回答数	5	1			6	
前年度回答率	83.3%	16.7%				
回答率の対前年度比	96%	120%				

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

<備考>

【新型コロナウイルス感染症等が利用者満足度に与えた影響と対応状況】

(※当該影響により評価結果がCとなった場合は必ず記載)

①新型コロナウイルス感染症等が利用者満足度に与えた影響
 新型コロナウイルス感染症等の影響に関しては「2. 総合的な評価」欄を参照

②令和4年度の対応状況
 新型コロナウイルス感染症等の影響に関しては「2. 総合的な評価」欄を参照

8. 収支状況

評価	≪評価の目安：収支差額の当初予算額が0円の施設≫ 収入合計／支出合計の比率が、S(優良)：105%以上 A(良好)：100%～105%未満 B(概ね計画どおりの収支状況である)：85%～100%未満 C(収支比率に15%を超えるマイナスが生じている)：85%未満
B	

[指定管理業務]

(単位:千円)

		収入の状況					支出の状況	収支の状況	
		指定管理料	利用料金	その他収入	その他収入の主な内訳	収入合計	支出	収支差額	収支比率
前々年度	当初予算	199,042	36,618	72,604	備考のとおり	308,264	308,264	0	
	決算	201,062	8,957	60,963	備考のとおり	270,982	256,090	14,892	105.82%
前年度	当初予算	214,804	25,502	57,345	備考のとおり	297,651	297,651	0	
	決算	214,804	24,998	68,190	備考のとおり	307,992	317,922	-9,930	96.88%
令和4年度	当初予算	216,405	30,298	86,144	備考のとおり	332,847	332,847	0	
	決算	216,405	28,944	101,935	備考のとおり	347,284	362,523	-15,239	95.80%

※支出に納付金が含まれる場合、その内数

(単位:千円)

令和4年度 /

前年度 /

前々年度 /

<備考>

【その他収入の主な内訳】

(前々年度・当初予算) 事業収入：37,551、補助金等収入：23,370 等
 (前々年度・決算) 事業収入：8,430、補助金等収入：20,564、他事業繰入金収入：19,460、特定資産取崩収入：10,958 等

(前年度・当初予算) 事業収入：22,140、補助金等収入：17,570、特定資産取崩収入：14,216 等

(前年度・決算) 事業収入：9,270、補助金等収入：36,376、特定資産取崩収入：15,089 等

(令和4年度・当初予算) 事業収入：40,461、補助金等収入：21,565 等

(令和4年度・決算) 事業収入：42,528、補助金等収入：33,068、特定資産取崩収入：17,395 等

【新型コロナウイルス感染症等が収支状況に与えた影響と対応状況】

(※当該影響により評価結果がCとなった場合は必ず記載)

①新型コロナウイルス感染症等が収支状況に与えた影響
 新型コロナウイルス感染症等の影響に関しては「2. 総合的な評価」欄を参照

②令和4年度の対応状況
 新型コロナウイルス感染症等の影響に関しては「2. 総合的な評価」欄を参照

9. 苦情・要望等 該当なし

分野	報告件数	概要	対応状況
施設・設備	1 件	・楽屋の対コロナ用の使用制限を緩和して欲しい。	随時ガイドラインを改定し、7月には楽屋定員の見直しを行った。
	件		
職員対応	1 件	・担当者によって対応に差がある時がある。	職員間の情報共有を進め、対応マニュアルを整備した。
	件		
事業内容	1 件	・チケットではなく、紙のプレスレドを巻く形式の入場方法があっても良い。	左記は野外フェス等での例をイメージしていると思われる。チケットの形態等については、事業形態によって工夫するなど、今後の検討材料としたい。
	件		
その他	2 件	・事前打合せを簡略化してほしい。 ・（利用に係る）抽選は、ネット化して欲しい。	事前打ち合わせは、催しの安全で円滑な運営のために必要であり、なくすことはできないが、要点を押さえた内容に心掛けつつ進めていきたい。一方ネット抽選については、開発経費及び高齢者の多い利用者の使いやすさという課題に留意しつつ、検討していきたい。
	件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

10. 事故・不祥事等 該当なし

発生日	①発生時の詳細な状況 ②県職員による確認の状況（内容及び実施日を記入） ③その後の経過（現在に至るまでの負傷者の状況、再発防止策等） ④施設に対する問題点の指摘やクレームの有無（有の場合は概要を記入） ⑤原因及び費用負担の有無（費用負担が有の場合は内容および負担者を記入） ⑥記者発表の有無（有の場合はその年月日を記入）
9月20日	①令和3年度決算の公益認定三基準の計算誤り ②県公益等認定審議会から指摘を受けた。 ③業務執行理事である専務理事が代表理事より口頭訓戒を受けた。 ④無 ⑤無 ⑥無
10月1日	①予定されていた事業計画1公演について内容と日程を変更し実施した。（再掲） ②事業変更届を提出し、承認を受けた。 ③無 ④無 ⑤無 ⑥無
9月	①各種提出書類の誤りが多発したため、7月に口頭指導し、9月に文書による改善報告を求めた。その後、年度末に提出された利用者満足度調査について、内容、数値等の誤りや誤記があったため、再提出及び経緯等について報告を求めた。 ②各種提出書類の確認（随時） ③随時提出書類を確認することとしている。 ④無 ⑤財団からの報告書によると、チェック漏れや現場担当者等が新任で十分な業務把握する時間もなく報告作成に臨み、記載を誤った等。 ⑥無

※随時モニタリングを実施した場合は必ずその内容を記載。

※過去に発生したものでも、新たな対応等を実施した場合には、その内容を記載。

※なお、大きな事故・不祥事について改善勧告を行わなかった場合は、その理由を併せて記載。

11. 労働環境の確保に係る取組状況

確認項目	指摘事項の有無	備考
法令に基づく手続き	無	
職員の配置体制	無	
労働時間	無	
職場環境	無	

※指摘事項は、県による監査（包括外部監査含む）又は労働基準監督署によるものとし、有とした場合は備考欄に概要を記載。